



会長就任のごあいさつ

福島県中学校長会会長 菅野 浩 智

今年度、福島県中学校長会会長を務めます、福島第三中学校長 菅野 浩智 と申します。会長就任にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

まずはじめに、これまで私たちをけん引し、多くの知恵と情熱をもって学校教育に携われてこられた諸先輩方に対し、深い敬意と感謝の意を表しますとともに、日頃より特段のご理解とご指導をいただいております福島県教育委員会、市町村教育委員会をはじめとする関係各位に感謝申し上げます。

さて、4月に、本校に赴任してきた先生方に「常日頃心掛けていることは何ですか」と尋ねました。ある先生から「福島復興の担い手をつくることです」、という答えが返ってきました。思わぬ答えに少々驚きましたが、希望をもって教育に携わる先生がいることを大変うれしく思いました。

今年も東日本大震災が発生した3月11日に知事メッセージが発信されました。メッセージには、福島県が県内の中学生から募集した「未来への手紙」の一部が引用されていました。令和6年度「未来への手紙」には、1200を超える作品が寄せられ、それらの手紙には、将来の福島県への願い、故郷に対する思いなどが書かれていました。東日本大震災から14年が経過しましたが、福島県の子どもたちは、福島復興への思いや願いをしっかりと抱いてるということを痛感しました。

私たちを取り巻く社会は、AIと呼ばれる人工知能やDXと呼ばれるデジタル変革などにより、働き方の転換期を迎えています。さらには、甚大な自然災害や季節を問わない感染症が頻発しています。目の前には、学力向上、不登校児童生徒の増加、教員志願者の減少など、対応すべき課題が山積しています。

そのようなこともあり、現代は「先行き不透明な時代」、「予測困難な時代」などと言われます。しかし、どんなに先行き不透明で、予測困難な時代だとしても、先ほど紹介したふくしま復興に思いをはせる生徒や教員のように、福島県の児童生徒は、将来への夢や希望をもって学校生活を送っています。福島県の教員は、ゆるぎない信念をもって教育に取り組んでいます。

だからこそ、私たち校長は、明確な指針と柔軟な対応力をもって、児童生徒、先生方の思いや願いを踏まえ、「楽しい学校づくり」、「働きがいのある学校づくり」を推進していく必要があります。それが学校の最高責任者である校長の責務だと思います。そして、校長会は、生徒や先生方の思いや願いの実現に向けて、関係機関等と連携し、本県中学校教育の振興を図っていく必要があります。それが一枚岩の結束を誇る校長会の責務だと思います。

「子どもたちのために」「教職員のために」という私たちの根本にある思いを忘れずに、中学校長会会員が手を携えて、前進、前進、そして前進し続けたいと思っています。

結びに、本県中学校教育の振興及び福島県中学校長会の益々の発展を祈念し、会長就任のあいさつとさせていただきます。